



森 恵子 議員

観光資源

「江田船山古墳」について

問 九州新幹線開通を2年

後に控え、新幹線利用客をいかに地域おこしに結びつけるか等の話題が日増しに多くなってきた。和水町でも課題の一つとして、この新幹線開通を町作りにどのように結びつけていくのか、町の受け入れ体制作りが急務であると思う。数多くの国宝が出土した江田船山古墳は和水町にとって大きな宝であり、又、熊本県内で熊本城と双壁といわれる大きなネームバリウムを持っている。このまま埋もれさせることのないように早急な対応を求めて3点伺う。

一、江田船山古墳についての認識を伺いたい。

二、清原台地一帯については肥後古代の森、肥後民家村、

江田船山古墳という呼び名があり大変紛らわしいと思う。「江田船山古墳公園」と名称統一を行い、公園の中に肥後古代の森、肥後民家村、菊水ロマン館、カヌー館、資料館等があるとしたほうが理解しやすいし、宣伝もしやすいと思う。町長、教育長の見解を伺う。

三、以上のことを含め今後の総合的な観光宣伝方針が早急に求められる。町はどう対応するのか、又、近隣市町と連携した案内表示を含め、どう取り組んでいくのか伺う。

答

一、（町長）江田船山古墳は5世紀後半に築造されたとされ、明治6年石棺内から60点以上の重要遺物が出土したと理解している。周辺の虚空蔵、塚坊主などの前方後円墳とともに昭和26年に国指定史跡に指定されたもので、江田船山古墳からはその後おびただしい遺物が発掘され、昭和44年には出土した2,000有余の遺物が国宝に指定されている。現在東京国立博物館で保管されてい

る。中でも銀象嵌銘大刀は75文字が刻まれ日本最古のものとして有名であることは十分認識している。このような江田船山古墳は大変貴重な宝であるし、これは又、我が町の誇りでもあると認識している。二、三、（町長）今年度中に会議を再会し、次年度は住民の方や各関係の方々にも参画いただき、観光による町づくりを模索する会議を持ちたいと考えている。観光案内表示についてはどのような数をどのように、どこの場合に設置するか、県との合議を進めながら観光サイン整備事業を行っていききたい。21年度500万円、22年度500万円、概算1千万円の整備事業を考えている。

（教育長）江田船山古墳公園のネーミングについては以前から折りに触れいろんな会議の場でもお願いしている。総括した名称ができるならと思っています。今後県と折衝をしながら進めていきたい。文化財の観光案内については、観光サイン整備事業の中に含

めて環境整備を進めていく。

子育て支援について

問

経済不況が続く現在、精神的、金銭的にも子育てに負担を感じる人が増えはしないかと懸念している。今後若い人たちが住みやすい町、そして子どもを育てやすい環境づくりに向け、できる限りの支援を押し進めるように町に切望する。

一、子育て支援を積極的に進めている当町に対して敬意を表する。平成21年度の子育て支援の重点政策について伺いたい。

二、子育ては家族だけでは無理な一面がある。地域や他者との連携・協力の強化について伺う。

答

一、（町長）子育て支援の重点施策の一つは、中学3年生までの医療費の無料化である。保険証があれば窓口での支払いが必要でなく、窓口無料化を継続していきたい。二、（健康福祉課長）

地域と他者との連携協力強化については、地域全体で子

育てを支援するということで基盤の形成を図るために子育て支援センター事業を行っている。町内4ヶ所で20年度利用人数4,400人、相談件数191件あった。又、母子保健推進員さんの家庭訪問事業も10名の子育て経験者のお母さんたちにお願している。町内10ブロックに分し、一人のお子さんに対して3歳まで8回の訪問を行い、年間約600件の訪問である。「こんにちは赤ちゃん事業」については、10名の母子保健推進員さんが2ヶ月児を対象に家庭訪問をし、子育て支援活動を行っている。



江田船山古墳



杉本 和彰 議員

財政について

問

①職員の方は財政の現状をどのように理解していると町長は認識しているのか伺う。②解決しなければいけない問題がどこにあるのか、そしてそれを解決するためにはどのような事務事業、施策が必要となるかという組み立てを行い、その中で必要な事業あるいは不必要となった事業、目的を果たした施策、そういうものを整理をしていく、見直していくというシステムがあるか。具体的な事業の見直しがあれば伺う。

答

(町長) 予算査定の際に財政事情を説明している。

問

行政全般にわたる経費の節減を行い、緊急性・必要性を重視し、公営企業への繰り出し金を含めた総合的な財政運営を図りながら健全化に

努めるとは。

答

(総務課長) 経常収支比率は年々下がっている。繰り出し金も減額している。

問

アウトソーシングの指

針について、行財政改革、特に民間活力の推進について方針を伺う。

答

(町長) 給食業務が、町立病院、特老、学校給食、保育園とあるがまずは病院での給食業務について検討を行い他のものに関して考える。検討を進める。

問

21年度予算について、まちづくりの命題である若者定住につながる少子化対策、子育てのしやすい環境、これらに積極的にこれから予算投資をしていかなければいけない。今後どのように施策は展開するのか。新しい「和水」のイメージ、それを実現する為の方策、過程等についてを具体的に伺う。

答

(町長) 昨年乳幼児医療費助成の窓口無料化は大好評である。21年度は中学校3年生まで医療費無料化する。子どもが保健活動を積極的に

進め、地域の関係団体、保健・医療関係の連携を強化、子どもの健康確保・母性の健康の確保・増進、地域における子育て支援の推進を図る。

(健康福祉課長) 0歳児から3歳未満のお子さんを養育している方、一律月額1万円、3歳から12歳まで第1子・第2子、月額5千円、第3子以降月額1万円を支給する。

問

住宅政策への取り組み

について「優良田園住宅の建設の促進に関する法律」を元に人口増の施策として導入する考えはないか伺う。

答

(町長) 基本方針を定めることによって、農山村地域における民間業者等の無秩序な開発の防止、住宅敷地の良好な保全、管理、農業の健全な発展との調和等町の特別措置から考えると非常にメリットがある。しかし本町が進める定住促進の観点からすると違う。

問

どこが違うのか伺いた

い。

(町長) しつかり熟知していない。活用するメリット

がどこにあるのか見いだせない。



住宅政策『グリーンブレス平野』地区現場

環境について

問

現在家庭や事業所から分別収集をされた生ごみはどのように処理をされているのか。又、年間の処理量はどのくらいかこれも伺う。農業生産に伴う野菜くず等の処分が

どのようにされているのか把握をされているのか。又、尋ねた処理方法で何ら問題はな

答

(税務住民課長) 家庭からの生ごみはクリーンパークファイブにて処分をしている。

問

バイオマス構想。国はモデル市町村を指定するなど積極的に地球温暖化防止に伴う循環型社会の構築を目指している。

答

(税務住民課長) バイオマスを使うメリットは、地球温暖化の防止、温室効果ガスの排出を抑制できる。資源使い捨てから資源リサイクルへの移行の促進と言うことで環境型社会の形成等もでてくる。

問

バイオマスの有効利用に対する関心度は高いとはいえないので、熊本県はバイオマスアドバイザー派遣制度に力を入れているが、謝礼金や旅費は県が負担するとあるが今後の取り組みは。

答

(町長) ピンとこない。理解するとうか、認識が薄い。